

第5回 栄東地区 学校配置検討委員会

日 時 令和6年(2024年)3月5日(火)16時～
場 所 栄新和町内会館 2階「大ホール」

次 第

1 開会

2 事務局挨拶

3 報告

- (1) 第4回検討委員会の振り返り・・・・・・・・・・資料1
- (2) 地域や保護者から寄せられた意見・・・・・・・・・・資料2

4 協議事項

- (1) 取組案における課題の整理について・・・・・・・・・・資料3
- (2) その他

5 次回の学校配置検討委員会の開催日程について

6 閉会

配付資料

- ▶次第
- ▶座席表
- ▶委員名簿
- ▶資料1 第4号栄東地区学校配置検討委員会ニュース
- ▶資料2 地域や保護者から寄せられた意見
- ▶資料3 取組案における課題の整理について（これまでの協議と寄せられた意見の概要）
- ▶参考資料1 通学区域外の学校への通学が認められる場合（指定変更）
- ▶参考資料2 想定スケジュール -今後のイメージ-

栄東地区 学校配置検討委員会ニュース

2024年1月 発行

栄東地区では、栄東小学校と栄緑小学校の小規模化による課題の解決等のため、令和5年2月より「学校配置検討委員会」を設置し、検討を進めています。

**「取組案」は1つの案であり、決定事項ではありません。
みなさまのご意見を事務局までお寄せください。**

検討委員会の配布資料等については札幌市教育委員会のウェブページに掲載しています。

<https://www.city.sapporo.jp/kyoiku/top/tekisei/sakaehigashi.html>

※ 第3回目の検討委員会後、第4回検討委員会開催までの間に地域から4件の意見が寄せられており、第4回の資料として検討委員会内で共有（内容確認）しています。

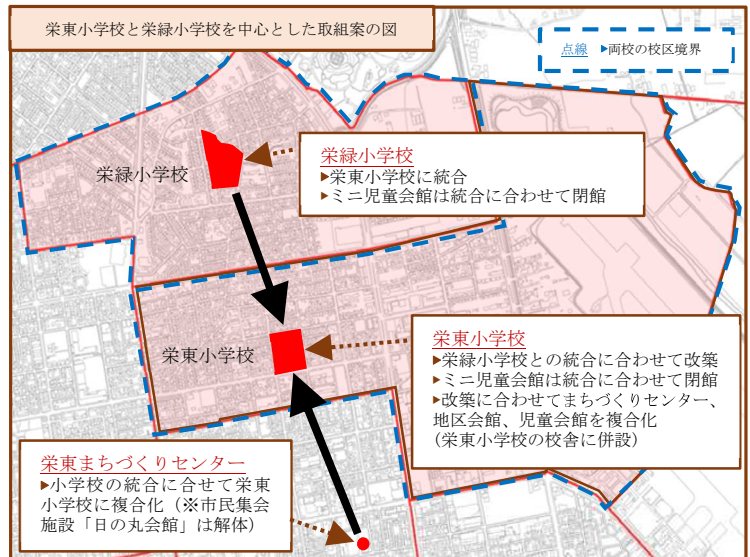


札幌市と教育委員会は、「学校配置検討委員会」（以下「検討委員会」といいます。）で協議を進めるためのたたき台となる「取組案」を作成し、第1回検討委員会（令和5年2月21日開催）において提示しました。

検討委員会では、引き続き、この「取組案」のとおり、学校規模の適正化を図るとした場合に考えられる課題などについて、協議、検討していくこととしています。

このたび、令和5年12月12日に第4回検討委員会を開催いたしました。検討状況につきまして、地域の皆様へお知らせします。

ぜひ多くのご意見をお寄せください。



1. 第4回検討委員会について

第4回の検討委員会では、第3回で委員から意見が出された「取組案における課題の整理」について、協議を行いました。

これまで3回にわたり検討委員会を開催してきた中で、小規模校や学校統合に関する様々な課題について協議を行いました。

協議事項によっては、継続協議となっているものや、地域や保護者から事務局に寄せられた意見に対して、協議を行っていないものも存在するため、これからどのような協議が必要なのか、検討委員会内で共通認識を持つことが重要と考えました。

以上のことから、第4回の検討委員会では、「取組案における課題の整理について」協議を行いました。

委員からの意見や質疑の応答について、次項より概要を掲載しています。

※ 類似の発言内容をまとめるなど文言を整理して掲載しています。

「○」…委員からの意見 「●」…質問等 「⇒」…委員、札幌市・教育委員会からの説明、回答

2. 取組案における課題の整理について

<学校規模適正化の取組について>

○「札幌市立小中学校の学校規模の適正化に関する基本方針」では、少なくとも各学年2学級以上が必要とされている。自分の子どもが高校受験を迎えるにあたり、ある程度の学校規模により、多面的な考え方やコミュニケーション能力が身に付くことを改めて実感したため、学校規模適正化の取組の必要性は理解できる。

● どういった理由であれば、今回の取組案が中止となる場合があるか。

⇒大規模な宅地開発が行われた等により、通学区域内の児童数が増加し、小規模化が解消される見込みがあることが判った場合は、中止することも考えられる。一方で、単に「小規模校がよい」という意見のみをもって、取組を中止することは想定していない。(教育委員会)

○小規模校の良さと一定規模の学校の中で過ごすメリットのどちらを取るかを決めることは難しいが、低学年のうち、手厚い対応や学校までの距離が近い方が保護者は安心する。

○栄緑小には、小規模校ならではの良さを感じていた。小さいコミュニティだからこそ発言のしやすさがあり、良さを感じている。

○大人数が苦手な子どももいるので、そういった子どもたちのためにも小規模校を残しておくことは必要に思う。

⇒小規模校が良いという意見に対して、真っ向から対立し、平行線をたどるような形となるが、教育委員会としては、子どもたちの良好な教育環境を整備するため、これまでも市内において小規模校の解消を図るための取組を進めてきたところであり、今回、栄東地区においても、この考えに基づき「取組案」として提案させていただいているものである。(教育委員会)

⇒混同される場合もあるが、少人数学級と小規模校は異なる考えである。教育委員会として、少人数学級を段階的に拡大することにより、学級において、より教員の目の行き届く環境を目指している一方で、切磋琢磨や社会性を身につけるといった観点から、一定の学校規模(学級数)が必要という考えは、現時点においては、不変のものである。(教育委員会)

○栄緑小学校の保護者にとっては、通学先の学校が近いに越したことはないと思うが、「札幌市立小中学校の学校規模の適正化に関する基本方針」により教育委員会の考えが示されているため、統合の流れは変わらないのではないかと。

○通学距離が長くなるということは、親として確かに不安はある。一方で、札幌の子どもたちは運動不足ということと言われるので、良い運動になるという発想の転換ができればよい。通学によって多くのことを学ぶこともまた事実である。

● 今回の取組案では、「統合に合わせて老朽化している栄東小学校の改築」が含まれているが、栄東小学校を改築するためには、栄緑小学校との統合は必須となるのか。

⇒前提として、栄緑小学校、栄東小学校の小規模化による課題の解決のため、取組案を提示している。その一方で、校舎の改築が取組案に大きく関わっていることも事実であり、改築する対象校の選定については、校舎を80年間は維持するという方針のもと、将来にわたって学校規模を維持できるかという観点から検討を行っている。(教育委員会)

- 現状の栄東小は、グラウンドや体育館が狭いため、敷地面積の中にまちづくりセンターや児童会館の複合化することが可能なのか心配である。
- なぜ今のタイミングで統合の検討を行う必要があるのかと疑問に感じており、子どもによって状況が異なるので、急いで結論を出す必要はないと考えていた。一方で、校舎の改築には時間がかかるし、子どももすぐに成長していくので、取組に関して検討を行うことは必要だと考えている。
- 日本全体で少子高齢化が問題となっているが、すぐに改善することは不可能だと考えている。早急に結論を出さないでほしいという栄緑小側の気持ちは分かるが、現実問題として、校舎の老朽化や少子化の問題があることは理解すべき。

<協議の進め方について>

- 小規模校解消の必要性については、第1号学校配置検討委員会ニュースに掲載されているとおり、保護者や有識者、公募委員から構成される「札幌市立小中学校適正配置検討懇談会」の中で検討されている。この検討委員会は、小規模校の良し悪しを協議する場ではないと考えている。統合することにより、教育環境が悪化しないか、子どもたちにとって何がベストなのか協議していきたい。
- 第3回検討委員会の開催後、統合が決定事項ではないことがより伝わるようなレイアウトにするようお願いしたが、ニュースレターのレイアウトが改善され、保護者にも意図が伝わっているようだった。
- この検討委員会に出席していない地域や保護者の方々が、ニュースレターを読むことで協議経過を理解し、多くの意見を寄せてもらうことで、検討委員会における協議も活発になると思う。
- 統合に対して反対の気持ちには変わりはないが、ここまで話し合いを重ねることにより、前向きな気持ちになれた。検討委員ではない地域の方々は、同じような気持ちになるまでかなり時間がかかると思うので、時間をかけて丁寧に周知を行っていくことにより解決できるのではないかと考えている。
- 校舎の改築も含め、新設校開校が10年先となるのであれば、周囲の環境も変化していると思うので、より先を見据えた検討が必要だと思う。
- 統合ありきの議論ではないが、これまで統合した場合に起こりうる課題について協議してきた経緯があるため、統合後の通学区域を協議事項とすることで、課題に対するイメージが付きやすく、議論も進めやすいと考えている。
- 栄緑小校区に住んでいる児童が、統合新設校の開校前から栄東小に通いたいとした時に指定変更は認められるのか。栄東小に通う方が遠くなる方は別として、新しい学校に通わせたいと思う保護者は一定数いるのではないか。

⇒栄東小敷地で統合新設校が開校するとした場合、栄緑小校区に居住する児童については、原則的には、統合新設校開校までの期間、指定校である栄緑小に通学していただくこととなる。ただし、小学校入学時点における個別の事情により、本市の指定変更の要件に該当する場合には、統合新設校開校前に栄東小へ指定変更を行うことができる。(教育委員会)

○10年、20年後のことを考えると、校舎が新しくなれば、子どもたちのためになる。少子化という大きな時代の流れの中で、いかに子どもたちを成長させるかという観点で協議を進めたい。

○両校から参加しているPTA役員は、保護者を代表して参加しているので、プレッシャーがかかると思うし、多くの声を聞いていると思う。最終的に「これだったら統合しても、子どもを預けられる」と保護者に納得してもらえるように引き続き協議を行っていきたい。

協議結果：

- ・次回も引き続き、これまで寄せられた意見をもとに協議事項の整理を行う。

次回の検討委員会について

- ▶会議名 第5回 栄東地区 学校配置検討委員会
- ▶開催日時 2024年(令和6年)3月5日火曜日 16時00分から
- ▶開催場所 栄新和町内会館(東区北48条東10丁目3番8号)

※ 検討委員のみが参加する会議のため、一般の方は入場できません。内容は後日ニュースレターやウェブページでお知らせいたします。また、日程は都合により変更となる場合があります。

次回(第5回)検討委員会の議題(予定)

- ▶第4回検討委員会の振り返り ▶地域や保護者等から寄せられたご意見等の共有
- ▶取組案における課題の整理と解決するための方法の検討

ご意見、ご質問は、下記事務局までお寄せください。

栄東地区 学校配置検討委員会事務局

- ▶札幌市教育委員会生涯学習部学校施設課(学校配置マネジメント担当)
- ▶電話：011-211-3836 FAX：011-211-3837
- ▶e-mail：gakkohaichi@city.sapporo.jp

検討委員会の開催概要は札幌市教育委員会のウェブページにも掲載しています。

<https://www.city.sapporo.jp/kyoiku/top/tekisei/sakaehigashi.html>

学校規模適正化 栄東

検索



さっぽろ市
02-S01-23-2474
R5-2-1514
SAPPORO

資料2 地域や保護者等から寄せられた意見

日時・方法等	内容	分類
<p>06.02.09 メール</p>	<p>東小と緑小の統合の件ですが、大反対です。 緑小がなぜなくなるかいけないのか理解不能。 東小は近くに栄小があるんだから東小を半分にわけて緑小残すべき！ しかも統合したら児童会館遠すぎて緑小の太平駅近い人は働いてるお母さん仕事終わった後にお迎え車ないと行けないし子供達も自分たちで帰ってこれない！バスでもタクシーでもそっちで出してくれるの？ 物事もう少し考えて発言して欲しい！意味分からない。 これ考えた人の考え方理解不能。</p> <p>東小分散すれば学校の解体費だけですむんだから余計な税金使わないでいただきたい！ 分散すれば改築しなくてすむでしょ！ そもそも学区の分け方がおかしい！ 緑小人数少ないんだし教室余ってるんだからそこに東小の子達受け入れられるでしょ！</p>	<p>取組案について</p>
日時・方法等	内容	分類
<p>06.02.15 電話</p>	<p>自分は元教師だが、現役時代に周辺で小学校の統合があった。 小規模校を担当したこともある。 当時は、小規模校の児童は関わる人が少なく刺激もないので、学力が低くなると言われていた。 ある程度の規模がある方が、コミュニケーション能力が付くという意見も一理あると思うが、小規模校の児童のコミュニケーション能力が低いとも言えないし、メリットはあると考えている。 子どもたちを地域で育てることを考えるのであれば、今回の取組に興味のある一般市民も傍聴できるようにした方がいい。 限られた委員だけでは、想像力や出される意見に限界がある。 こういう意見があったこともとどめておいてほしい。</p>	<p>学校規模・学校配置検討委員会について</p>

日時・方法等	内容	分類
<p>06.02.15 ホームページ</p>	<p>栄東地区 学校配置検討委員会 事務局様</p> <p>札幌市立小中学校適正配置検討懇談会に参加されてる皆様お疲れ様です。</p> <p>第1～4号のニュース拝見させていただいております。 2点気になったので、意見させていただきます。</p> <p>(1点目) 第1号のニュースにて両学校の推計学級数が記載されておりましたが、統合した場合、23～27学級になるかと思えます。タイミングによっては適正規模を超えることがあり、子供の教育や学校生活に支障が出ないのか心配です。</p> <p>(2点目) 他の地域でマンモス校になっている学校では、運動会など子供の成長を見る機会では、観にきた保護者の数が増えてしまい、まともに見れないと聞いています。子供も保護者に見られて、頑張ったり悔しかったりと大切なイベントだと考えています。統合されてもグラウンドが広がるわけではないと思うので、統合された場合に不安を感じます。</p> <p>以上になります。</p>	<p>統合後の学校規模・グラウンドについて</p>

日時・方法等	内容	分類
06.02.24 メール	<p>子供2人、栄緑小を卒業させた保護者です。 率直に言って栄東小、栄緑小の統合には反対です。</p> <ul style="list-style-type: none"> 通学路が危険(1例として添付画像①) 塀と電柱の間はランドセルでは通れないと思います。 車道に出るしかありません。 その他にも危険な箇所は沢山ありますし、冬場はより危険箇所が増えます。 昨今の異常気象を考へても通学の距離が長くなる上に、危険な箇所を小学生に歩かせるというのは心配でなりません。 検討委員会に参加されている方は通学路になるであろう道を歩いたことはありますか？是非直接確認していただければと思います。 栄緑小が無くなった場合、災害時の避難場所はどうなるのか。 能登半島の地震の映像を見ても感じましたが、高齢者等は栄東小まで避難するのも難しいと思います。 胆振東部地震もありましたが、札幌でも大地震が起きる可能性がありますし、局地的な豪雨で洪水等も起こらないとは限らない。 近くに頑丈な避難場所が無くなるのは心細くて仕方ないです。 そもそも小規模校解消のメリットが理解できません。 栄東地区は中学は6~7クラスありますし、多面的な考え方やコミュニケーション能力は中学で身に付くと思います。 小学生のうちには他学年の児童や先生方との交流、近い距離感で関わってもらえる事が重要に思います。 先日の道新で道南版の記事ですが、函館の小学校の統合に関するものが載っていました。画像の2枚目に添付しています。 自ら意見、質問等をメールすることは、とてもハードルが高いと思います。 私も最初からずっと反対だと思っていましたが、思っただけでメールはしていません。 賛否にかかわらず、そういう方は大勢いると思います。 多くの方の意見を聞くためには、やはりアンケート等も検討された方が良いでしょう。 まだまだ伝えたい思ひはありますが、メールでは伝えきれません。 どうか未来を担う子供達にとっても地域にとっても、1番良い結果になりますように。 	通学路の危険・避難場所ほか

1 学校規模・学校統合について

（検討委員会における意見）

■統合反対の立場

- 小規模校ならではの良さがある栄緑小が続いてほしい
- 提示された小規模校の課題は、栄緑小に当てはまっていない
- 大人数が苦手な子もいる。そういう子に小規模校を残すことも必要
- 統合反対だが、教育委員会、学校、PTA 委員の話し合いの場を設けてくれたことで前向きになった（他同種意見1件）

■統合賛成もしくははやむを得ない立場

- 校舎の建て替えに併せて学校規模の適正化を図ることは札幌市の方針と理解
- 保護者にとって学校は近い方がよいが、市の基本方針もあり、学校統合の流れは変えられない
- 基本方針では各学年2クラス以上必要としている。最近では、小規模校のデメリットを感じる
- ある程度人数がいた方が多面的な考えやコミュニケーション能力が身につくと思う
- 栄東小は老朽化が進み、校舎や設備、立ち木やグラウンドなどで問題が起きている
- 10年、20年先を考え、校舎が新しくなれば子どもたちのためにもなる
- 栄緑小側の心情は理解。ただし、現実問題として栄東小の校舎老朽化や少子化の問題は理解すべき

■その他

- 栄東小は今でも手狭。敷地的に他施設の複合化は可能か。手狭になってしまうと元も子もない
- 当初、なぜ今、統合の検討かと思った。改築の時間や子どもの成長から検討の必要性は理解した
- 委員でない地域の方が同じ気持ちになるには時間がかかる。丁寧に周知することで解決へ
- 新設校開設まで10年ほど時間をかけた方がよい
- 小規模校解消の必要性については、「札幌市学校適正配置検討懇談会」で検討されている。この検討委員会は、小規模校の良し悪しを協議する場ではないと考えている

（外部からの意見）

■統合反対の立場から

- 少人数だからこそできる良い教育環境を残して
- 百合が原地区の町内会では（学校統合）反対が多数。統合前提で議題が進んでいる
- 町内には若い世帯が増えている。閉校になれば（こうした）動きが鈍くなる恐れあり
- 小規模校の児童のコミュニケーション能力が低いとは言えないし、メリットがある

■その他

- （学校統合は）保育園や幼稚園の選択に影響する、統合ならいつごろか目途を示してほしい
- 小学校12学級を満たさなくとも、地域の声で統合しない場合があるか。また、適切な通学区域設定について引き続き議論してほしい

（備考）

- ※ 今回提示している「取組案」は、大規模な宅地開発等で児童数の大幅な増加するといった事情がない限り、単に「小規模化がよい」という意見のみで中止することは想定していない（教育委員会）
- ※ 札幌市では、「札幌市立小中学校の学校規模適正化に関する基本方針」（2007年8月策定。2018年4月改正。）に基づき、これまでも学校規模適正化の取組を進めている（教育委員会）
- ※ 小規模校と少人数学級とは似て異なる考え。学級において、より教員の目の行き届く環境を目指している一方で、様々な個性と出会い、切磋琢磨し、それぞれの個性や社会性を身につけるという観点から一定の学校規模（学級数）が必要という考えは、現時点において不変のもの（教育委員会）

2 （統合した場合の）通学安全について

（検討委員会における意見）

- 学校統合した場合、（デイサービスや塾などでの送迎で）学校付近への駐車が増える懸念がある
- 両校とも除雪後の歩道がかなり狭い
- 冬の除雪・排雪のことが心配。安全に通学できる除雪・排雪にも力を入れてほしい
- 冬は道が狭く、夏は猛暑の中、重い荷物で大変。スクールバスの導入が必要ではないか
- 通学路の除雪は、札幌市の除雪体制の問題で、学校統合に限らずどの学校にも発生する難題である
- 札幌市の除雪体制の充実を求めるのは賛成。通学路の安全確保は、交通安全指導員をはじめ地域が主体的になって行うべき問題である

（外部からの意見）

- （栄緑小校区から栄東小の）歩道も狭く、交通量も多く危険。学校統合に先立って歩道の整備、時間指定による交通規制なども検討いただきたい。
- 最も遠いところで1.8 kmもの徒歩通学は危険（特に低学年）。通学時間帯の北49条通りなど交通量が多く、危険極まりない（積雪・凍結の冬（のスリップ）や夏の暴走も不安）
- 町内会やPTAの見守りも実施されているが事故は減っていない。交通事故は重大な社会問題

（備考）

- ※ 札幌市では、徒歩通学を基本とし、小学校の通学距離の目安を2キロとしている。想定される最長の通学距離から、今回の取組案においては、スクールバス導入は想定していない（教育委員会）

3 （統合した場合の）通学距離・通学区域について

（検討委員会における意見）

- （栄東小に通っているが）自宅から学校までは遠く、栄緑小 PTA の心配はよくわかる
- 校舎の改築は教育委員会の責任で進めること。通学区域や通学安全をしっかり議論したい
- 通学距離が長くなると子どもの行動範囲が広がるため不安
- 栄東小は栄緑小からの通学距離より遠いところもある。より近い学校を選択できるような柔軟な対応ができないのか
- 通学距離 2 km という基準は現代に合わない。冬場は特にそう感じる。
- ある程度の通学距離は体力づくりにもなるというポジティブに考えてはどうか

（外部からの意見）

- 栄東小に統合を行う場合、より近い小学校に通えるように選択制にしてほしい（例えば、栄北小、百合が原小など。2件）
- 近い小学校に通えるように通学区域を直してほしい（7件）
- 通学区域の見直し、通学距離が同じなら、通いやすい小学校を選択できるように（1件）

（備考）

※ 地域意見を参考に、統合新設校の通学区域について、2つの区域に「指定変更区域」を設定する2つの案を検討委員会に提示。「時限的であるべきかどうか」という点も含め検討資料化（教育委員会）

4 その他

（検討委員会における意見）

- （自身の経験から）学校が新しくなるとPTA活動も活発に、こどもたちにも良い影響があった
- 検討委員会における協議がまとまっても、開校まで最低6年はかかることが見込まれる。近年の建築業界を取り巻く環境からさらに時間がかかる可能性も
- ニュースを通じて、検討委員のみならず、地域や保護者と共有しながら協議を進めていきたい。検討委員会でのこれまでの議論は、まだ決定事項ではないことをニュースで強調してほしい（第3号のニュースから改善されていたと思う。）
- これからの児童や地域のことを真剣に考えて意見を出したい
- 校舎の老朽化や少子化の進行など、周囲の環境も変化する。より先を見据えた検討が必要
- 栄北会館は2年後閉館する。小規模校化している栄緑小の空き教室に集会室機能を持たせて欲しい
- 子どもたちをいかに成長させるかという観点で協議をしたい

- 両校の PTA はプレッシャーがあると思うが、多くの声を聴いていると思う
- 両校の保護者が納得して「統合しても子どもを預けられる」と思ってもらえるように議論をしたい
- （新設校には）必要となる教室数の確保が重要
- 子どもの音への敏感さや（周囲の動きで）集中力を欠かさない設備の充実・考慮が必要
- 学校統合により、遠距離になることで車の送迎増加（児童デイサービスや塾など）することを想定してロータリーなどの設備も必要
- 栄緑小跡地については、地域住民が利用できるような施設や災害時の避難施設としての活用を望む

（外部からの意見）

- 栄東小と栄緑小の統合は大反対である。栄東小を解体して、栄緑小、栄小に分散すればよいのではないか。
- 栄東小、栄緑小の推計学級数をみると統合した場合、適正規模を超える恐れがある
- マンモス校では、運動会など子どもの成長を見る機会が保護者数が増えて支障がある。統合してもグラウンドが広がるわけではなく不安である。
- 検討委員会は、限られた委員だけではなく、興味のある市民が傍聴できるようにしてほしい。

（備考）

- ※ 栄東小を栄緑小と栄小に分散すると教室数が不足することが想定される（教育委員会）
- ※ 統合による学級数は、両校の学級数推計の単純合計ではない。推計上、取組案による学校統合を行った場合には、統合校は適正規模となる想定である（教育委員会）
- ※ 委員会非公開は、委員の自由で忌憚のない意見交換を行うために、第1回の委員会で決定したものである（教育委員会）

※ これまで寄せられた意見について、趣旨を同じくするものを集約・整理したものです（検討委員会における検討資料化にあたり、趣旨を損なわない範囲で要約しています。）。

※ 各意見の詳細については、第4回検討委員会（12月12日開催）の「資料3」や各回検討委員会の「資料2」を参照願います。